



エンペラーペンギンが繁殖期によく滞在するエリアにいる他個体の一部をバックヤードに移動。飼育密度を下げて繁殖成功を目指す。

移動前



少しは落ち着いた環境になったかな・・・？

移動後



まずは交尾成功を目指して！

エンペラー繁殖シーズン 今年はスカス力作戦で 繁殖成功を目指します

繁殖成功に向けて「二工夫」

今シーズンもエンペラーペンギンたちの繁殖シーズンがやってきた。これまでダイエット作戦やウオーキング作戦など様々な工夫を凝らしてきたが未だ名古屋港水族館では繁殖成功に至っていない。課題の一つとして交尾が上手くできていないことがあげられる。今シーズンは新たな試みとして、エンペラーペンギンたちと行動エリアが被りがちな他種の一部のペンギンたちにバックヤードへ移動してもらった。飼育密度を下げてスペースを確保し、少しでも繁殖行動に集中できるような環境でエンペラーペンギンたちの繁殖成功に繋げることが狙い。名付けて「飼育密度スカス力作戦」（略してスカス力作戦！）果たして吉と出るか？

おまけ情報① ペンギンの交尾



過去に一度成功した？エンペラーペンギン8番と1番の交尾。しかし、この年は残念ながら無精卵だった。

ペンギンの交尾は腹ばい姿勢のメスの上にオスが乗り、その状態でお互いの総排泄腔を接触させて行う。文章にするととてもシンプルだがメスの背中でお互いの接触させるのはなかなか大変そう。名古屋港水族館のエンペラーペンギン8番と1番ペアは過去に一度しか背中に乗れたことがない。今年は飼育密度を下げることで交尾成功に繋がるか期待したい。

担当飼育係の声

まずは有精卵の確保を！ただ、それだけで満足することはできません。これまで有精卵は得ることが出来ましたが全て発生が途中で止まってしまし、ふ化することはありませんでした。名古屋港水族館初のエンペラーペンギンのヒナ誕生への道は一筋縄ではいきませんが頑張っていきたいと思っています。今回のスカス力作戦で全飼育羽数の内、約4分の1のペンギンがバックヤードへ移動しています。バックヤードのペンギンたちも元気に暮らしていますので安心ください。

おまけ情報② エンペラーに縄張りとは？

エンペラーペンギンは巣を作らず、産んだ卵は足の上に乗せてだぶついたお腹を被せて温める。卵を温めるのはオスの役目でメスは卵をオスに預けたら餌を求めて海を目指す。オスはメスが帰ってくるまでひたすら温めなければならない。ちなみにエンペラーペンギンは縄張りをもたない種類。縄張り意識が無いのは繁殖期である真冬の南極は複数羽が密集して過ごさないと体温維持ができないからと考えられている。名古屋港水族館でも他のペンギンよりも性格がおっとりしているエンペラーペンギンには他種のエンペラーペンギンに近づいて攻撃されることもしばしば。それでは繁殖にも集中できないだろうということで飼育密度スカス力作戦を実行したというわけ。